

# 尾張版



胡蝶蘭  
若松加津子  
光陵会

ニュース、情報は下記へ  
社 会 部  
052-231-1650・5919  
Eメール  
shakai@chunichi.co.jp

一宮 総局 〒491-0851  
一宮市大江1-13-13  
0586-72-4545 Fax72-5035  
津島通信局 0567-28-2157 Fax28-2158  
稲沢通信部 0587-32-8800 Fax23-8035  
江南通信部 0587-54-4001 Fax54-9622  
蟹江通信部 0567-95-3022 Fax95-3000  
春日井支局 0568-81-2036 Fax81-2797  
犬山通信局 0568-61-2612 Fax61-2613  
小牧通信局 0568-72-1177 Fax72-6530

中日新聞へのご意見は  
読者センターへ  
052-221-0800 Fax221-0819  
Eメール  
center@chunichi.co.jp  
掲載写真を購入ご希望の方は  
最寄りの中日新聞販売店へ

いのちのかけこみ寺  
縁切り供養  
**大法寺**  
費用、納骨、供養、墓じまい、仏壇じまい  
何でもご相談ください  
**0567-28-7319**  
愛西市稲葉町江頭10番地  
樹木葬 大法寺 検索

# 安心できる環境 関わり合い学ぶ

一宮市奥町の上林記念病院にある児童・思春期デイケア「JOY(ジョイ)」は、不登校の小中学生を病院で受け入れる県内でも珍しい取り組みをしている。子どもたちは安心して暮らせる環境で周囲との関わり方を学んでいる。

## 一宮の院内デイケア

六月末、病院内にある農園でジョイに通う子どもたちが毎日の日課である水やりをした。ジャガイモなどの野菜が収穫期を迎え、小学生の女の子は「みんな育ててきた野菜ができるうれしい」とはにかんだ。



ジョイに通い、畑作業をする小学生の女兒(手前)と臨床心理士の白川さん(一宮市の上林記念病院)

## 園芸や工作、多彩なプログラム

## 不登校の子 興味伸ばす

た日は学校の登校日に認められる。子どもの興味関心を伸ばそうと、工作や料理など多くのプログラムを準備し、教室には楽器や漫画もある。午前や午後だけの参加もでき、個別活動の時間には自分で持ち込んだ教材で勉強できる。駄菓子屋を借り切って遊ぶ、駄菓子屋を借りた。例えば、建築に詳しい大人との交流がきっかけで、

## ニーズ高まる 病院、民間施設

文部科学省が不登校と定める年に三十日以上欠席した小学生は二〇二一年度に全国で1.3%、中学生で5.0%。これに対し、一宮市の不登校割合は小学生で1.9%、中学生で6.8%と全国平均より高い。不登校の児童・生徒は学校外のどこかで支援を受けているのか。文科省の全国調査(複数回答)によると、適応指導教室など教育委員会の施設に通う子の割合は17.5%と五年前から1.8%減少。一方、ジョイのような院内デイケアを含む病院は14.0%と4.8%増加。フリースクールなど民間施設も、7%と1.6%増えた。学校の内外を問わず支援を受けていない子は36.3%と三人に一人以上いた。

## 「学校と異なる選択肢必要」

不登校政策に詳しい東北大学の後藤武俊准教授は「子どもたちは学校の人間関係や学び方法など、何らかの理由で休んでいる。学校とは一定の距離があり、全く異なる性質の選択肢が必要」と指摘。「子どもが感じる困難はそれぞれ異なり、必要な選択肢があれば、家にこもることにつながり、社会との関わりが断たれた子どもが増える」と病院や民間施設への支援強化を訴えた。

## 人件費などかさみ、支援強化訴え

「秋原町連区交通協議会」が企画。子どもたちはバスに乗って、一宮駅を訪れた。平野吉広会長(右)は「子どもたちも興味を持って質問をして、楽しんでくれた」と話した。

見学会は、地元のコミュニティバス「ニコニコぶれあいバス」の利用を促す

象には当てはまらない。このハトはどろろい扱いになるのか尋ねると、産業廃棄物ではないので一般廃棄物になるという答えだった。市のホームページで確かめてみると、可燃物の日に市のゴミ袋に入れて出してもいいらしい。県の担当者に「それでは少し忍びないですね」と話すと、「そういうお気持ちで、埋葬される人もいます」と聞いた。そこで庭にスコップで小さな穴を掘り、そこにハトを入れた。墓石代わりに小さな石をそっと置いた。



元気よく質問をした子どもたち—一宮市議会で

## 大きな声で 市長に質問

### 一宮・中島小児童議会を見学

一宮市の中島小学校の児童たちが二日、一宮市議会を見学に来た。実際に議員が使っている席に座って質問するなど、普段はできない体験に子どもたちも興奮していた。

同校の五、六年生約二十人が参加。職員や市議の案内で、議場や委員会室、議長室などを順番に見学して記念撮影した。議場では中野正康市長らに質問。子どもたちは「議長！」と大きな声を出して手を上げてから、「市長になったきっかけは」「お休みの日は何をしていますか」などと素朴

津島通信局の小さな庭に六月下旬、亡くなったハトの小さな墓をつくった。その前日、駐車場で一羽のハトがべったりと倒れているのを見つけたが、すでに息絶えていた。初めてのことで、どうしたらいいのかわからない。鳥インフルインザの場合も考えて、県の出先機関に聞いてみた。



象には当てはまらない。このハトはどろろい扱いになるのか尋ねると、産業廃棄物ではないので一般廃棄物になるという答えだった。市のホームページで確かめてみると、可燃物の日に市のゴミ袋に入れて出してもいいらしい。県の担当者に「それでは少し忍びないですね」と話すと、「そういうお気持ちで、埋葬される人もいます」と聞いた。そこで庭にスコップで小さな穴を掘り、そこにハトを入れた。墓石代わりに小さな石をそっと置いた。

(吉田幸雄)